

## 広島県・江戸時代の港町、呉市御手洗地区

～かつての繁栄残す隠れた名所～

日本不動産研究所 中四国支社  
不動産鑑定士 富永 伸二

瀬戸内海の中程、しまなみ海道近くの大崎下島にある呉市豊町御手洗地区は、江戸時代に「沖乗り」航路の寄港地として新たに開かれた港町である。北前船の中継貿易港として西日本の物流拠点となり、とても栄えた所で「西日本で大阪の次に栄えた町」と言われ、江戸時代のお茶屋、乙女座という芝居小屋等、古い町並みが残っている。



「歴史を残す古い街並み」

明治維新で活躍した著名人である坂本龍馬、西郷隆盛、桂小五郎、高杉晋作、中岡慎太郎、吉田松陰等が多数訪れ、四藩同盟（御手洗条約：龍馬が暗殺される直前の1867年11月に龍馬、大久保、桂らにより締結された薩摩・長州・土佐・芸州の四藩連合軍事同盟）はこの地で結ばれている。



「みたらい散策絵図」

町全体が「重要伝統的建造物群保存地区」に指定され、京都の文化が残る古い町家の表に住民が花を飾り人々の目を楽しませてくれる。途中の豊島大橋が約5年前に完成し、陸伝いに行けるようになり、利便性が格段に良くなった。もともと、それまでは鍵を掛けずに済んでいたのが、そう出来なくなったとか。この橋の完成により7つの島が橋で繋がり、本州から愛媛県今治市（岡村島）まで車で行ける様になった。途中、安芸灘大橋だけが有料（700円）だが、土・日・祝日に指定施設で1,000円以上の買物をすると回数券が1枚貰える。



「花が飾られている町家の表」

広島県では古い港町として「崖の上のポニョ」で有名になった福山市の鞆の浦が知られているが、規模は御手洗の方が大きく、見所が一杯の隠れた名所として、歴女の方等は必見と言える。この町並みは「歴史の見える丘公園」から一望出来る。ちなみに、鞆の浦は「ポニョ」だが、御手洗は映画「ももへの手紙」の舞台になった。しかしながら、現在観光客はとても少ない。



「歴史の見える丘公園から望む御手洗地区」

なお、「御手洗」の読み方は「おてあらい」ではなく、「みたらい」と読み、地名の由来は、神功皇后が三韓征伐で途中寄港し、この地の清水で手を洗ったという伝承からとのこと。今は天満宮もあり、「官公の井戸」で書き初めをすると頭が良くなると言われている。途中の下蒲刈島三之瀬地区には朝鮮通信史資料館を含む松濤園もあり、瀬戸内海が交通の要衝として江戸時代に大いに繁栄していたことが伺える。